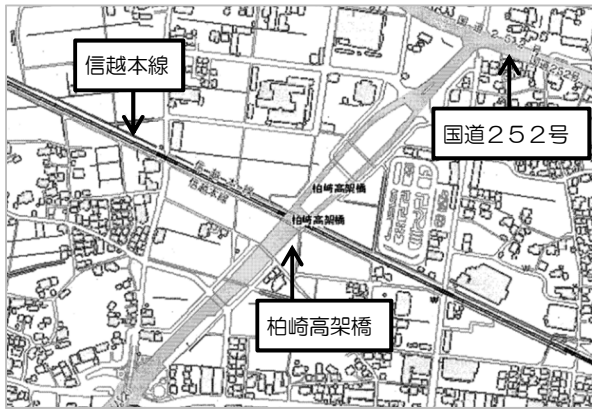


# 「柏崎の橋」

## 7 3 柏崎高架橋

柏崎高架橋は国道8号柏崎バイパスの一部で、JR信越本線をまたいで、茨目地区と半田地区をつなぐ。

柏崎バイパスは、国道8号が慢性的に混雑し、幹線道路としての機能維持が困難なことから、平成元年に整備が決定され、国道252号と国道353号を結ぶ茨目～城東間2.6kmが先行して工事が進められた。平成18年に柏崎高架橋下部の工事に着工。橋梁の桁は道路空間の整備方針として「桁下の視点に対して圧迫感を軽減する色彩」と配慮され、現在は薄緑色に塗装されている。



柏崎高架橋と付近の図  
(柏崎市GISベースマップより)

当初、橋の名は仮称「半田高架橋」と呼ばれていたが、平成13年2月に市民から親しみやすい名称を市内から募集し、10月に「柏崎高架橋」と決定した。高架橋から上越方面を望むと、正面に米山が見えることから「米山」「米峰」と付く名称も多く寄せられたが、道路利用者がわかりやすく知名度も高い「柏崎」が最もふさわしいとして「柏崎高架橋」という名称に決定したという。

平成14年5月に、柏崎バイパス茨目～城東間の部分供用10月開始を決定した。この時点で高架橋は床版工事が仕上げの段階に入っており、舗装はアスファルトにゴムチップを混ぜた凍結抑制舗装が市内で初めて採用された。これは車両の重みで路面がたわみ、凍結した路面の氷が割れて除去しやすくなるというものである。



現在の柏崎高架橋

同年10月20日、部分的ではあるが待望のバイパス開通を祝って、半田小学校マーチングバンドが高架橋から演奏行進をした他、みこしの披露、柏崎の野菜・特産品の販売、鏡が沖中学校吹奏楽部の演奏など、多彩な記念イベントが行われた。

28日の開通式典は、前日からの暴風雨のため会場を半田コミュニティセンターに移し、現地でのテープカットは中止されたが、正午には暴風雨の中開通パレードが行われ、供用が開始となった。

柏崎バイパスは現在も建設工事中であり、完成時には市内長崎～鯨波間11kmを結ぶ幹線道路として、市民から早期の全線開通が期待されている。バイパスは「米山と潮の香の道」のキャッチフレーズのとおり、全線開通したあかつきには他県から訪れる人々を海に米山にといざなう道となるであろう。現在、延長384.5mの柏崎高架橋だが、バイパス完成時は約730mの巨大な橋に改築される予定である。

### ●参考にした資料

『一般国道8号柏崎バイパス』(514 ケン)

建設省北陸地方建設局長岡国道工事事務所調査課・柏崎市都市計画課著

『柏崎バイパス』(514 コク)

建設省北陸地方建設局長岡国道工事事務所編著

『広報かじわざき 平成13年度』

(318.2 K 01) 柏崎市編

柏崎日報 平成13年～14年

越後タイムス 平成14年11月1日